

振り返り文の精緻分析を通じた 学修観変容支援

加藤 竜哉

愛知大学 地域政策学部 地域政策学センター

アジェンダ

- 8大学連携における、学修観研究を振り返る
- 学生の振り返り文に注目した背景
- 振り返り文から学修観の変容を支援する試み
- まとめ

学修観因子整理

			↓ 河住先生ら		
			考えようとする力	行動しようとする力	認められようとする力
			因子1: 考えようとする意識	因子2: 行動しようとする意識	因子3: 周りの評価を 気にする意識
学習動機	内発的動機付け	充実志向(内容そのもの楽しい)		○	
		訓練志向(自己成長・能力向上)		○	
		実用志向(将来の役立ち)		○	
	外発的動機付け	関係志向(他者との関係・所属)			○
		自尊志向(承認・尊敬)			○
		報酬志向(成績・資格・外的報酬)			○
精神的回復力	新奇性追求			○	
	感情調整		○		
	肯定的な未来志向			○	
学習観	失敗に対する柔軟性		○		
	思考過程の重視		○		
	方略志向		○		
	意味理解思考		○		
↑ 市川先生, 小塩先生ら			↑ 山川先生ら		

8大学連携での
学生個票
2013年～
↓
測る
↓
学生が読める

大学名: _____ 学科: _____ 専攻: 1 _____
<あなたの科目別基礎力>

	日本語	数学	情報	英語-Listening-	英語-Reading-
得点					
学内平均					
学内順位					

<分野別得点>

日本語	点数	満点
漢字		
語彙		
文法・敬語		
読解力		

数学

情報

	点数	満点
情報活用の実践力		
情報の科学的な理解		
情報社会に参画する態度		

英語

学籍番号: _____ 氏名: _____
<あなたが見た自分の学び>

あなたが見た自分の学びを知り、学びの姿勢を振り返りましょう

項目	度合い	あなたの得点(大学平均値)		
考えようとする意識の度合い	強い	62	(61)	最大 93
行動しようとする意識の度合い	強い	73	(73)	最大 100
周りの評価を気にする意識の度合い	強い	63	(54)	最大 96

コメント

「考えようとする意識の度合い」、「行動しようとする意識の度合い」、「周りの評価を気にする意識の度合い」の3つの自己評価から総合的に判断すると、次のようになります。

いままで、あなたは柔軟な姿勢を保ち、勉強にも前向きに取り組んできています。また、友人や教職員との関係を大切にし、自分の感情をコントロールしながら勉強を進めているところは良いです。

将来に対する明確な目的をもって、学習に対しても中身を理解する姿勢がみられます。つまり、まずきそうになった時には早めに人に相談しましょう。

これらのことを考えて、自分の学びの姿勢を振り返りましょう。(度合いは、あなたの大学でのアンケートの平均と比較し、平均値より大きい場合は「強い」、小さい場合は「弱い」と表現しています。)

なお、このアンケートを複数回受けているときは、それぞれのあなたの得点を比較して、学び姿勢の変化を知ることができます。

あなたの結果 _____ 大学平均 ……………

<p>学びの欲求</p>	<p>学習方法のもとにある考え</p>
<p>立ち直る力</p>	<p>①頑や知力を鍛えようとの思いから学ぼうとしている ②生活や将来の仕事に活かそうとの思いから学ぼうとしている ③学びにおいて、友達、先生、親などの周りの人との関係を気にしている ④自分のプライドや他者と競う思いから学ぼうとしている ⑤将来の生活を豊かにする/将来経済的によい生活をするために学ぼうとしている ⑥勉強することや、わかることの楽しさから学ぼうとしている ⑦失敗したときや、つまづきを前向きにとらえて次に活かそうとしている ⑧答えだけでなく、解き方や考え方も大事にしようとしている ⑨学習のしかたや方法を工夫しようとしている ⑩学習の中身の意味を理解しようとしている ⑪いろいろなことに興味、関心を持ち、それらを知ったりチャレンジしようとしている ⑫自分の感情をコントロールしようとしている ⑬明るい未来を思い、その将来に向けて進もうとしている</p>

研究(1)2014年： 学びのスタイルと学修観アンケートの関係性

- 早期支援の見立て(測定→見立て→支援)
- 学生・教職員が共有できる“ものさし”を模索
- 狙い：入学直後に、支援が必要な層を早期に見立てる
- 知見：学修観は「動機×学習方法」の関係として読みうる
- $\pm 2\sigma$ などの極端値を手がかりに and条件で抽出
→面接で確認し、表面的には適応して見える“潜在リスク”を捉えうる

研究(2)2016年:

学習者特性を診断・可視化するシステムの開発と評価

- 授業内で活用できる可視化

- 学習者特性の診断→可視化→eポートフォリオ化
- 可視化は、学生のメタ認知・自己省察の「入口」になる
- 知見: 学生は「レーダーチャート」より「タイプ+アドバイス」を使う
- 「見せ方」が支援効果を左右する

8大学連携での
学生個票
2015年～

学籍番号: _____ 氏名: _____

< あなたの科目別基礎力 >

	日本語	数学	情報	英語
得点				
学内平均				
学内順位				

< 分野別状況とコメント >

日本語

	正解数	問題数
漢字		
語彙		
文法・読解		
短文読解		

数学

情報

	正解数	問題数
情報活用基礎力		
情報のセキュリティ基礎		
情報社会に参画する基礎		

英語

< あなたが見た自分の学び >

あなたの結果 _____ 大学平均 _____

学びの欲求

① 頭や知力を鍛えようとの思いから学ぼうとしている
 ② 生活や将来の仕事に活かそうとの思いから学ぼうとしている
 ③ 学びにおいて、友達、先生、親などの周りの人との関係を気にしている
 ④ 自分のプライドや他者と競う思いから学ぼうとしている
 ⑤ 将来の生活を豊かにする/将来経済的によい生活をするために学ぼうとしている
 ⑥ 勉強することや、わかることの楽しさから学ぼうとしている

全員面談は現実的に難しい

- 8大学で共通に使える「軽量な返却形式」へ
- 6角形のみでの出力に個票レイアウトを変更
- 共通ルーブリック作成も試行

< あなたが見た自分の学び >

あなたの結果 _____ 大学平均 _____

学びの欲求

① 頭や知力を鍛えようとの思いから学ぼうとしている
 ② 生活や将来の仕事に活かそうとの思いから学ぼうとしている
 ③ 学びにおいて、友達、先生、親などの周りの人との関係を気にしている
 ④ 自分のプライドや他者と競う思いから学ぼうとしている
 ⑤ 将来の生活を豊かにする/将来経済的によい生活をするために学ぼうとしている
 ⑥ 勉強することや、わかることの楽しさから学ぼうとしている

研究(3)2019年～2020年

- ・科目を越えた学習特性把握のための数学的理論について
- ・特性ベクトルを用いた学生の潜在的基礎学力の可視化手法について

・科目横断の潜在特性(得点以外の見方)

- ・得点は「位置」を示すが、理解・判断・表現などの特性は見えにくい
 - 設問を能力タグ化し、正解パターンを特性ベクトルとして可視化
- ・結果: 得点分布とは別の特性群団が見え、教科を越えた共通特性の可能性が示唆
 - 「不得手の思い込み(優劣ではなく)」から、自己理解の更新
 - 「次の一歩へ(Selected Successの原点)」

研究(4)2023年

・大学入学時の学習動機に関する調査

・複数年の継続運用(支援設計の入口)

- ・ 枠組み:市川モデルの6志向(内容関与:充実・訓練・実用／内容分離:関係・自尊・報酬)
- ・ 全体傾向:内容関与が優勢,特に実用志向が強い
- ・ クラスタで志向バランスの違いが見える
- 動機パターンは, **学習支援・アドバイジング**で「働きかけ設計」の入口に



学修観アンケート＝入学時，学期末などで実施

→ **動的に捉えられないか？**

毎回の授業後に得られる振り返り文なら，
学修観を「立ち上がり」として追えるのでは？



学生の「**振り返り文（自然言語データ）**」に着目

なぜ振り返り文なのか

- 学修観は行動だけでなく、言語化に現れる
- 振り返り文の強み
 1. 授業の意図と接続しやすい
 2. メタ認知・意味づけ・問いの“芽”が出る
 3. その場の理解と次の行動が同じ振り返り文に書かれる
- 課題：大量・多様で、人手だけでは読めない
→ 読む枠組みが必要

精緻分析とは

- 入力: 学生の振り返り文 (毎回)
- 処理: 観点辞書 (語彙, 正規表現) + 文脈ルール (質的条件)
- 出力: 観点別 (0, 0.5, 1), 根拠文抜粋, 講評 → 次への指針 (支援)
 - 次回は“問い”を1つ言語化しよう
 - 行動計画は「いつ／何を／どこまで」まで落としこもう
- 次の設計と支援へ接続
- 集計で見えること
 - 授業回ごとに, どの観点が立ち上がるか
 - どの回でどの支援が必要かを, 教員側が早く掴める
- 共有価値: **大学・授業が違ってても, 同じ「ものさし」で, 教員と学生が対話できる, 「学生支援と授業改善」** → 詳しくは午後の発表で

まとめに代えて

学修観を、「測る」から「読む」へ
共通基盤を、入学後支援へ接続